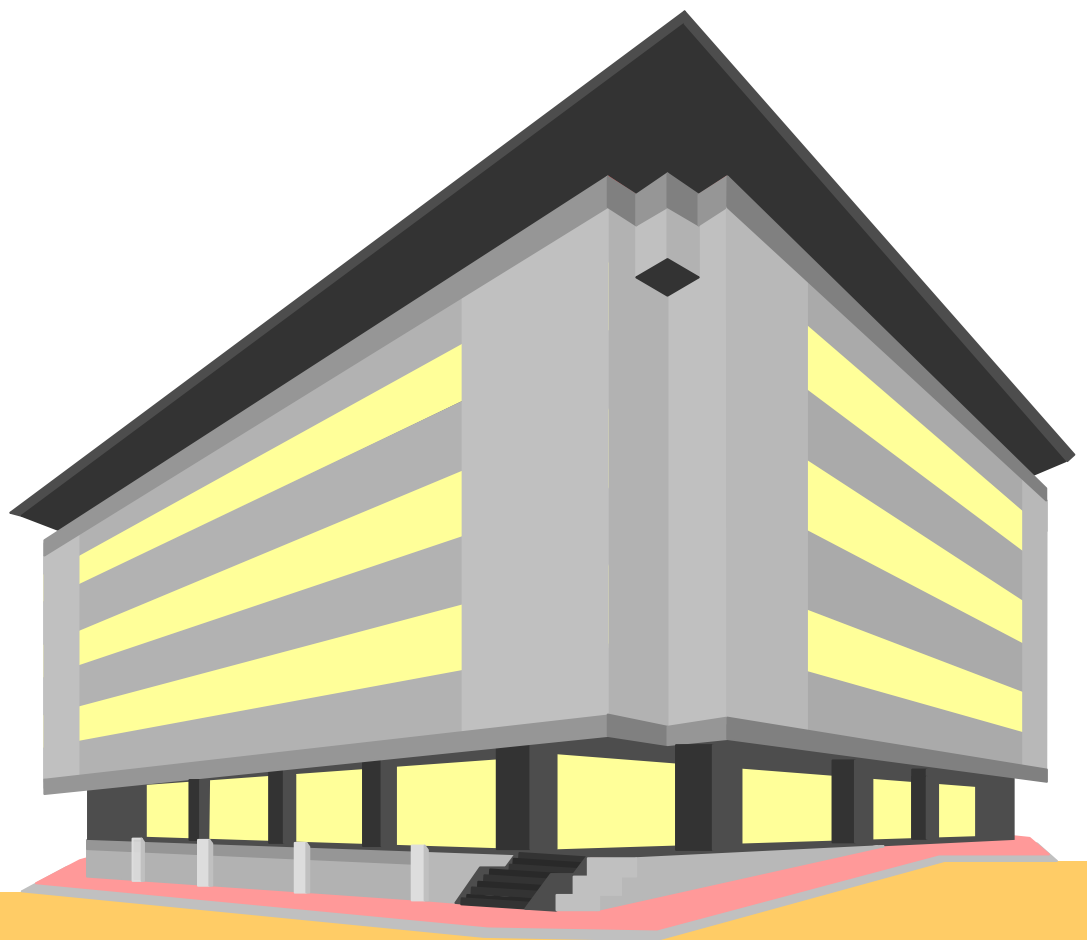


博士論文の 探し方



A. 国内の博士論文

A1. 概要

博士論文とは、博士の学位を得るために大学院などに提出される研究論文のことです。学位論文という場合も一般に博士論文が中心になります¹。

博士論文は流通を目的としていないので、一般的に入手が困難な資料です。日本では、博士論文は提出した大学の図書館と国立国会図書館に所蔵されます。2013 年度(平成 25 年度)より、博士論文はインターネット公表されることとなりました²。それ以前のものについても、一部ではありますが、著者の許諾の下に博士論文を電子化し、インターネット上で公開している大学もあります。その他、一般的に人文学系の博士論文は単行本として刊行されることが多く、理系の博士論文は専門の学術雑誌に掲載されることが多いように、何らかの形で学術情報流通のルートにのることもあります。

また、博士論文には、歴史的な経緯や分野ごとの習慣の違いがあります。例えば、博士には課程博士と論文博士の二種類があり、前者が十分な素質を持った比較的若手の研究者に与えられるのに対して、後者は長年学問分野に対して貢献した年長の研究者に与えられることが多いとされています³。また、特に人文・社会科学系においては博士の学位は十分な功績をあげた研究者に与えられるものとして考えられ、博士の学位取得率は圧倒的に理系の方が多いという状況が続いていました。但し最近においては人文・社会科学系の若手研究者に対しても博士の学位が与えられるようになってきています⁴。

博士論文については、論文の内容と論文審査の結果の要旨を掲載した要旨集が発行されるのが一般的でした。要旨集は、発行元の大学の図書館や、国立国会図書館で所蔵している他、各大学や大学図書館のウェブサイトで公開されているものもあります。また、2013 年度以降に授与された博士論文は、少なくとも要旨をインターネットで公開することが義務付けられています⁵。要旨を確認することで、対象の博士論文がどのように審査され、評価されたのかを知ることができます。

¹ 「一般に「学位論文」という場合は博士論文が中心になる。」三浦逸雄、野末俊比古編『専門資料論』、日本図書館協会、2008、p.120、(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 2)

² 「博士の学位を授与されたものは、当該博士の学位を授与された日から一年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表するものとする…」学位規則第9条、「博士の学位を授与された者が行う前二項の規定による公表は、当該博士の学位を授与した大学又は独立行政法人大学評価・学位授与機構の協力を得て、インターネットの利用により行うものとする」同条3項

*ただし、やむを得ない事由がある場合には要旨のみの公表となります。

³ 「博士には論文博士と課程博士の二種があり、少なくとも法律上は、両者の間に差別はない建前となっている。しかし、課程博士の方は、多くの場合、将来研究者として一本立ちして行くに十分な素質を持っていることを示す論文を書いた、比較的年齢の若い者に授与されるのに対して、論文博士は、年配者の完成度の高い論文に対して学問に対する長年の貢献を称えて授与されると巷間いわれている。これは、公式の解釈ではないし、当然例外はあり得るが、前者は研究者としての「可能性」に期待して与えられ、後者は学問の進歩に対する「貢献」に対して与えられる正確を持っていると解されている。」新堀聰『評価される博士・修士・卒業論文の書き方・考え方』、同文館出版、2004、p.124

⁴ 例えば、文部科学省ホームページの「博士学位授与数の推移と授与率について」によると平成 3 年度と平成 13 年度の博士授与率の比較は、「人文」4.7%→23.0%、「社会」11.0%→28.5%、「理」63.1%→77.0%、「工」78.1%→88.6%、「保健」86.1%→81.6% となっている。文部科学省、「博士学位授与数の推移と授与率について」、文部科学省ホームページ。

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1407428.htm、(参照 2020-03-19)

⁵ 「大学及び独立行政法人大学評価・学位授与機構は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から三月以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。」学位規則第8条

以下、博士論文を活用するに当たって役に立つ図書やウェブサイト、ツール等を紹介します。

A2. 博士論文の検索

- [CiNii Research](https://cir.nii.ac.jp/) (国立情報学研究所)
<https://cir.nii.ac.jp/>
 - * 国内博士論文を最も包括的に検索できるデータベースです。
 - * 博士論文本文がデジタル化・公開されていれば、リンクをたどり本文まで表示できます(一部、リンクはあっても要旨のみ掲載のケースがあります)。

A3. 大学に提出された形態の博士論文

審査のために大学に提出された博士論文は入手困難な資料ですが、利用できないわけではありません。インターネットからの入手、購入、図書館を通じた利用などが可能です。

○基本的な全体像

学位授与年度	所蔵機関	利用
2012 年度(平成 24 年度)以前	冊子で、学位授与大学 および 国立国会図書館関西館 が所蔵	訪問利用もしくは複写取寄可能 ※一部インターネット公開等されているもの もあり
2013 年度(平成 25 年度)以降	電子的に、学位授与大学が インターネット公開	インターネットから全文利用可能
	「やむを得ない事由」のある場合は、 要旨のみをインターネットで公開	学位授与大学が何らかの形で全文の閲覧 を提供(方法は大学によって異なる)

*「やむを得ない事由」のある場合とは、博士論文の一部もしくは全体を学術雑誌に投稿する予定がある、単行本として出版する予定がある等、インターネット公開することにより本人に不利益が生じる場合等です。

A3-1. 入手のためのガイド

- [リサーチ・ナビ 国内博士論文](https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/kansai-kan/post_100044) (国立国会図書館)
https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/kansai-kan/post_100044

A3-2. 個人での入手

A3-2-1. web 経由(フリー)

- [CiNii Research](https://cir.nii.ac.jp/) (国立情報学研究所) <https://cir.nii.ac.jp/>
- [IRDB 学術機関リポジトリデータベース](https://irdb.nii.ac.jp/) (国立情報学研究所) <https://irdb.nii.ac.jp/>
 - * 基本的には、IRDB の情報は CiNii Research で検索できます。大学図書館等がインターネット上で公開している博士論文を検索・入手できます。

- [国立国会図書館デジタルコレクション](https://dl.ndl.go.jp/)（国立国会図書館）

<https://dl.ndl.go.jp/>

* 基本的に、国立国会図書館デジタルコレクションの情報は CiNii Research で検索できます。

* (1)1987(昭和 62)年度から 2000(平成 12)年度に国立国会図書館に納本された約 18 万点の博士論文のうち、約 1 万点(複数の論文から成る場合は主論文のみ) (2) 2013(平成 25)年度以降に学位授与され、国立国会図書館が電子形態で収集した博士論文のうち、許諾を得られたものを公開しています。

A3-3. 図書館経由での利用(訪問利用・複写取寄)

学位授与大学の図書館を利用する方法と、国立国会図書館を利用する方法があります。利用を希望される場合は、B 棟 2F 参考調査カウンター(訪問利用)、A 棟 2F 相互利用カウンター(複写取寄)にご相談ください(平日 9:00-17:00)。なお、国立国会図書館は個人でも利用可能です。

* 訪問利用での複写の場合も複写取寄の場合も、全体の半分以上の複写には、著者自身の署名・捺印のある「複写許諾書」が必要です。図書館で許諾書の取得を代行することはできません。書式等については参考調査カウンターにお問い合わせください。

- 訪問利用—他大学(通常は学位授与大学)
 - * 基本的に、訪問による閲覧や複写が可能です。
- 訪問利用—国立国会図書館関西館
 - * 訪問による閲覧や複写が可能です。
 - * 国立国会図書館では、帝国図書館から引き継いだ 1923(大正 12)年 9 月から 2012(平成 24)年度までの国内博士論文を所蔵しています。

[国立国会図書館サーチ](https://ndlonline.ndl.go.jp/)

<https://ndlonline.ndl.go.jp/>

* 国立国会図書館で所蔵している博士論文を検索できます。

* 検索方法などは、以下のウェブサイトをご確認ください。

[リサーチ・ナビ 国内博士論文\(国立国会図書館\)](https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/kansai-kan/post_100044)

https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/kansai-kan/post_100044

- 複写取寄
 - * 他大学(通常は学位授与大学)の図書館もしくは国立国会図書館から、博士論文の複写を取り寄せることができます。

A3-4. 大阪大学に提出された博士論文の利用

大阪大学では4つの図書館で分担して博士論文を保管・提供しています。総合図書館では、2012年度(平成24年度)までに授与された文学・人間科学・法学・経済学・応用経済学・経営学・理学・工学・言語文化学・国際公共政策・情報科学・学術の学位の博士論文を所蔵しています。利用についてはA棟2Fメインカウンターでご相談ください(平日9:00-17:00)。

- [大阪大学の博士論文について](#)

<https://www.library.osaka-u.ac.jp/resource/thesis/>

大阪大学の博士学位論文の所蔵情報(学位の種類ごとの所蔵図書館)・利用方法を案内しています。

A4. 出版者から発行された形態の博士論文

博士論文は、単行本として出版されたり雑誌論文として学術雑誌に掲載されたりすることがあります。ただし全ての博士論文がそのような形で公表されるわけではありません。また、出版された博士論文はそのままの形ではなく、修正、追補をしたものや、一部を抜粋したもの、一般向けに読みやすくしたもの等、様々な形をとることがあります。オリジナルの博士論文と、博士論文をもとにした出版物のどちらを利用するかは状況に応じて判断する必要があります。なお、酒井聡樹著『これから論文を書く若者のために』や井上真琴著『図書館に訊け!』では出版者から発行された形態のものの利用を推奨しています⁶⁷。

A4-1. 検索

A4-1-1. 単行本

A4-1-1-1. 特定の博士論文の単行本を探す場合

1. 「CiNii Research」等で特定の博士論文の書誌事項を確認します。
2. 「CiNii Books」(全国の大学図書館の所蔵情報)、「国立国会図書館サーチ」(国立国会図書館の蔵書検索)、「Amazon.co.jp」等を、著者名で検索して、出版物のタイトルと博士論文の論題が一致する、もしくは似ているものを探します。(著者名でヒットしない場合は、博士論文の論題中の単語等でも検索してみましょう)
3. 出版物のタイトルと博士論文の論題が一致する、もしくは似ているものがヒットした場合、「CiNii Books」の書誌事項や出版社のウェブサイト上の情報等を確認して、博士論文をもととする旨が記述されているかどうかを確認します。もしくは、直接その単行本の序文やあとがきを確認してその旨記されているかどうかを確認します。

⁶ 「学位論文は、学位を申請するために学位審査機関に提出するものであって、世界に向けて発表されるものではない。だから、引用するときには、学位論文そのものではなく、その内容を原著論文に書き直したものを引用する」酒井聡樹『これから論文を書く若者のために』究極の大改訂版、共立出版、2015、p.137、

⁷ 「もし、学位論文を利用するなら、出版者から発行された形態のものを利用することをお勧めしたい。というのも、博士論文と本との間には、同じ内容であっても天地の差があるからだ。索引の付与、地図・図版類の付加など、付加価値のついた出版物になったあとの博士論文を利用するほうが、私たちにはより使いやすいものであることはいままでもない。」井上真琴『図書館に訊け!』、筑摩書房、2004、p.204、(ちくま新書 486)

A4-1-1-2. 出版された単行本の中から博士論文をもととするものを探す場合

- 「CiNii Books」を下記キーワード等で検索します。
「博士論文」「学位論文」「学位請求論文」「学位申請論文」「博士号」

* 博士論文をもととする単行本には、書誌情報の「注記事項」に、「博士学位請求論文「〇〇〇の史的展開」(〇〇大学, 2001 年提出)に圧縮と補筆を行ったもの」等の記述があり、そこで使われている単語を検索しています。

* ただし全ての博士論文をもととする単行本の書誌情報にそのような注記がされているわけではありません(検索できるのはあくまで一部のもののみです)。

* 検索結果にはノイズ(博士論文をもととする単行本ではないもの)が含まれることがあります。

A4-1-2. 雑誌論文(原著論文)

A4-1-2-1. 特定の博士論文の雑誌論文(原著論文)を探す場合

1. 「CiNii Dissertations」等で特定の博士論文の書誌事項を確認します。
2. 「CiNii Research」の「論文」タブ(医学系なら「医中誌 web」、自然科学・工学系なら「JDreamⅢ」、また英語で書かれた博士論文の場合は「Web of Science」「Scopus」などの海外文献データベースも検索した方が良いでしょう)、著者名で検索して、雑誌論文のタイトルと博士論文の論題が一致する、もしくは似ているものを探します(著者名でヒットしない場合は、博士論文の論題中の単語等でも検索しましょう)。

また、よくあるケースとして、すでに発表した雑誌論文をベースにしたり、部分的に使用したりして、博士論文が執筆されることがあります。このような場合、博士論文の目次や参考文献リスト等を確認することで、ベースとなった雑誌論文が分かることが多いです。

「A3-3 図書館経由での利用(訪問利用・複写取寄)」の節で紹介した複写取寄を行う際に、目次や参考文献リストを含める形で取り寄せると良いかもしれません。また、所蔵している図書館に可能な範囲での調査依頼をすることもできます。参考調査カウンターにご相談ください。

A4-1-3. ほかに有用な検索方法

単行本か雑誌論文かにかかわらず、現在も研究を続けている方の博士論文である場合は、以下のようなウェブサイトを確認することもあります。過去の業績を細かくリストアップしていることも多いので、検索の参考になります。

- [Researchmap](https://researchmap.jp/)
<https://researchmap.jp/>
日本の研究者が自身の研究業績などを公開するポータルサイトです。
- 大学等所属機関の研究者情報検索システム
多くの大学等研究機関では、所属している研究者の情報をまとめて公開しています。
例えば、大阪大学の場合は、「[大阪大学研究者総覧](https://rd.iai.osaka-u.ac.jp/)」(<https://rd.iai.osaka-u.ac.jp/>)がこれにあたります。
- 研究科・研究室や研究者個人のウェブサイト
大学等所属機関の研究科・研究室のウェブサイトに研究者情報が掲載されていることも多いです。また、個人でウェブサイトを持ち、情報が公開されていることもあります。

A5. 引用方法

下記の資料で博士論文を引用するときの方法について解説されています。

- 藤田節子著『レポート・論文作成のための引用・参考文献の書き方』（2009 年）
[阪大所蔵](#)（総合図-A 棟 2 階 アカデミック・スキル・コーナー/総合図-A 棟 4 階 学習用図書 816.5/FUJ）
”参考文献の具体的な書き方 博士論文” p.91
- 櫻井雅夫著『レポート・論文の書き方上級』改訂版（2003 年）
[阪大所蔵](#)（総合図-A 棟 2 階 アカデミック・スキル・コーナー/総合図-A 棟 4 階 学習用図書 816.5/SAK）
”引用文献の標記方法 引用方式 2－脚注、巻末注／後注／尾注 学位論文その他の場合” p.127-128
”記述サンプル集 学位論文” p.183-184
- [SIST02 科学技術情報流通技術基準 参考文献の書き方 5.4 学位論文](#)
https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/12003258/jipsti.jst.go.jp/sist/handbook/sist02_2007/sist02.htm#5-4

B. 海外の博士論文

海外の博士論文の入手は基本的に困難ですが、下記に紹介するウェブサイトやツールで検索・閲覧・購入等ができるものもあります。

B1. ガイド

下記のウェブサイトで海外博士論文の入手について詳しく説明されています。

- [リサーチ・ナビ 海外博士論文（総論）](#)（国立国会図書館）
https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/kansai-kan/post_400041
* 国立国会図書館では 1950 年代後半から、主に科学技術分野の欧米博士論文を収集しています。人文・社会科学分野は、日本関係の主題を扱ったもののみを一部選択的に収集しています。

B2. 検索

下記のデータベース、ウェブサイトでどのような学位論文が執筆されているかを検索できます。

- ProQuest Dissertations & Theses A&I（大阪大学契約データベース）
* 北米を中心にした学位論文のデータベースです。1743 年以降の学位論文を検索でき、冒頭 24 ページ分のプレビューを利用できるものもあります。
データベースの利用は [大阪大学附属図書館Web サイト](#)>データベース から。
- [学位論文を探す](#)（インターネットで文献探索 2022 年版）
<https://biblioguide.net/inet2022/pt2/186/>
* 国別の博士・学位論文のオンライン目録を紹介しています。

- [リサーチナビ 海外博士論文\(インターネット情報源\)](#)(国立国会図書館)

https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/kansai-kan/post_335

* 欧米の博士・学位論文だけでなく、アジアの博士・学位論文についての情報も充実しています。

B3. 入手

B3-1. web 経由(フリー)

論文によってはオンライン上で全文が見られるものもあります。一例として、下記のツールを使って検索します。「B2. 検索」の節で示したウェブサイトにも多くの情報が掲載されています。

- [Open Access Theses & Dissertations](#)

<https://oatd.org/>

* 全世界から多くの機関が参加しています。収録されている大半の学位論文の全文を利用することが可能です。

- [Global ETD Search](#)

<http://search.ndltd.org/>

* 電子学位論文ネットワーク(Networked Digital Library of Theses and Dissertations: NDLTD)の提供するサービスです。全世界から多くの機関が参加しています。一部の学位論文の全文を利用することが可能です。

- [British Library EthOS](#)

<https://ethos.bl.uk/>

* 英国図書館(British Library)が提供する学位論文ポータルサイトです。全英の 50 万件以上の学位論文が検索できるほか、ユーザ登録することでフルテキストのダウンロード、オンデマンドによる電子化注文(有料)ができます。無料公開されている機関リポジトリ等へのリンクもあります。

* 2023 年に発生したサイバー攻撃の影響のため、2025 年 4 月時点ではサービス中止中。EthOS に収録されていた博士論文のメタデータ(書誌情報)は、下記の Web ページからスプレッドシート形式でダウンロードできます。

<https://bl.iro.bl.uk/concern/datasets/10cc13f9-797d-41f2-a7e2-d29f4306133e>

- [Google Scholar](#)

<https://scholar.google.co.jp/>

* インターネット上の学術資料を検索できます。

B3-2. web 経由(購入)

以下のデータベースから個人で購入可能です(図書館は仲介しません)。

- ProQuest Dissertations & Theses A&I(大阪大学契約データベース)

* 北米を中心にした学位論文のデータベースです。1743 年以降のの学位論文を検索できます。また、検索結果から PDF やハードカバー等の入手形態を選択した上で、クレジットカードで直接購入することができます。

データベースの利用は [大阪大学附属図書館Web サイト](#)>データベース>すべてのタイトルを表示 から。

B3-3. 書店等経由(購入)

下記の企業で海外博士論文の複写依頼を代行しています。個人で申込可能です(図書館は仲介しません)。

- [ARROW\(ドキュメントデリバリーサービス\)](https://www.sunmedia.co.jp/document-delivery-service/) (サンメディア)
<https://www.sunmedia.co.jp/document-delivery-service/>
- [丸善雄松堂学位論文センター](https://kw.maruzen.co.jp/ln/ydsc/) (丸善雄松堂)
<https://kw.maruzen.co.jp/ln/ydsc/>

B3-4. 国内図書館経由(有料)

国内の図書館に、海外の博士論文が所蔵されている場合もあります。下記のウェブサイトでご確認ください。所蔵館を確認できない場合は、総合図書館の参考調査カウンターもしくは相互利用カウンターでご相談ください。ただし入手不可能な場合もあります。

- [CiNii Books](https://ci.nii.ac.jp/books/) 国内大学図書館の所蔵検索
<https://ci.nii.ac.jp/books/>
- [国立国会図書館サーチ](https://ndlonline.ndl.go.jp/)
<https://ndlonline.ndl.go.jp/>
* 所蔵範囲や検索方法などは、以下のウェブサイトをご確認ください。

[リサーチナビ 海外博士論文\(インターネット情報源\)](https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/kansai-kan/post_335) (国立国会図書館)

https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/kansai-kan/post_335

* 国立国会図書館では、北米を中心に多くの博士論文のフルテキストを収録しているデータベース ProQuest Dissertations & Theses Global を契約しています。直接訪問することで、閲覧・プリントアウトが可能です(複写取寄は不可)。特定の論文が、このデータベースに収録があるかどうかを事前に問い合わせご希望の場合は、参考調査カウンターでご相談ください。

B4. 引用方法

「A5.引用方法」の節で挙げた資料を参照してください。

